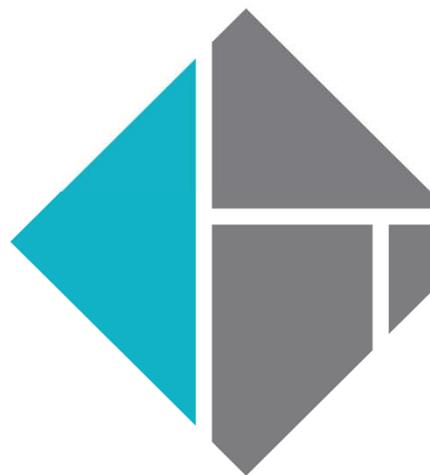


2015年3月期決算説明資料

2015.5.8

ITホールディングス株式会社

Copyright © 2015 IT Holdings Corporation All rights reserved.



(2015年5月11日開催 アナリスト向け決算説明会 プレゼンテーション要旨)

・おはようございます。ITホールディングス 柳井です。

本日は、当社説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

2015年3月期 業績概要

2016年3月期 業績見通し

参考資料

- ・まず、私の方から2015年3月期の実績と2016年3月期の業績見通しについてご説明させていただき、その後に、第3次中期経営計画について社長の前西からご説明させていただきたいと考えています。
- ・時間の関係から業績等については、簡潔に説明させていただきたいと思います。

2015年3月期 業績ハイライト

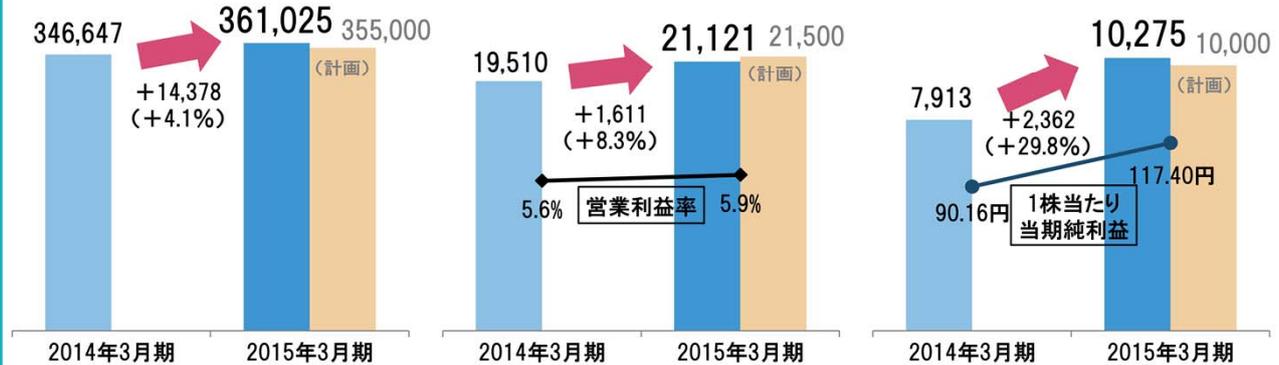
(単位:百万円)

- ・売上高は好調な事業環境を背景に前期比増収、計画超過。
- ・営業利益は前期比増益ながら僅かに計画未達。当期純利益は前期・計画とも上回る。

売上高 361,025百万円
 前期比 +14,378百万円(+4.1%)
 計画比 +6,025百万円(+1.7%)

営業利益 21,121百万円
 前期比 +1,611百万円(+8.3%)
 計画比 ▲379百万円(▲1.8%)

当期純利益 10,275百万円
 前期比 +2,362百万円(+29.8%)
 計画比 +275百万円(+2.8%)



顧客のIT投資ニーズを的確に捉えたこと等により、好調に推移。前期を上回るとともに計画を超過。

増収効果や不採算案件の抑制等が複数の大型開発案件の獲得及び遂行に向けた体制強化に係る費用等を吸収したことから、前期を上回った。計画比では先行投資コストの増加等により、僅かに未達。

営業利益の増加等に伴い、前期比増益。計画比では、営業外損益の改善等によりやや超過。

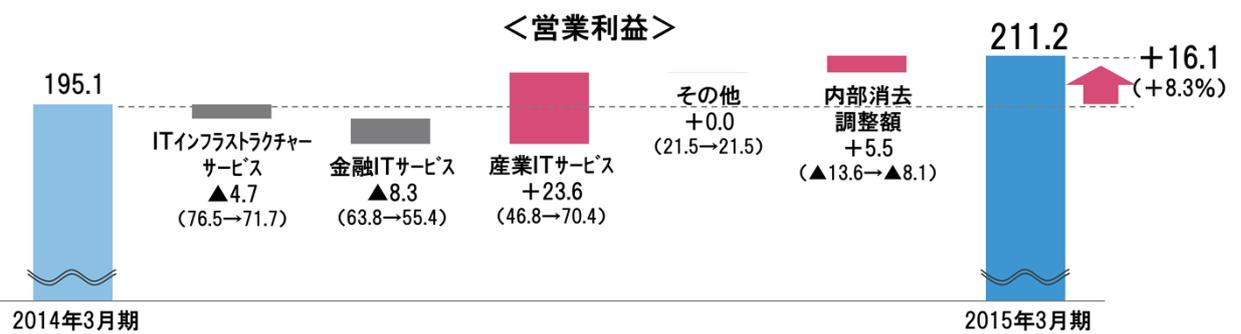
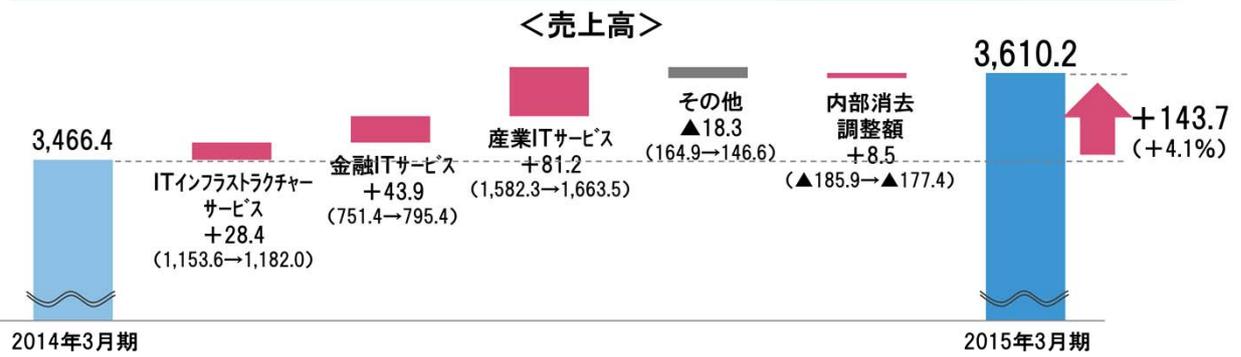
Copyright © 2015 IT Holdings Corporation All rights reserved.

2

- ・2015年3月期の業績概要です。
- ・売上高は3,610億円となりました。好調な事業環境を背景に前期比4.1%増となり、計画を上回りました。
- ・営業利益は211億円となりました。前期比では、増収効果や不採算案件抑制等により8.3%増益となりましたが、計画比では、大型プロジェクトの準備に関わる先行的費用の影響等もあり、未達という結果となりました。
- ・当期純利益は前期比増益かつ計画超過となりました。EPS(1株当たり当期純利益)については、90.16円から117.40円ということで向上しています。
- ・なお、当期における不採算案件の金額は、前期比9億円減少の34億円となりました。

2015年3月期 売上高・営業利益増減分析

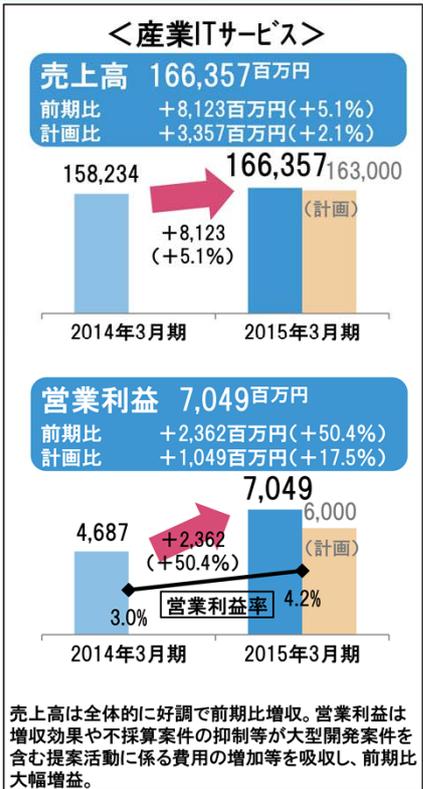
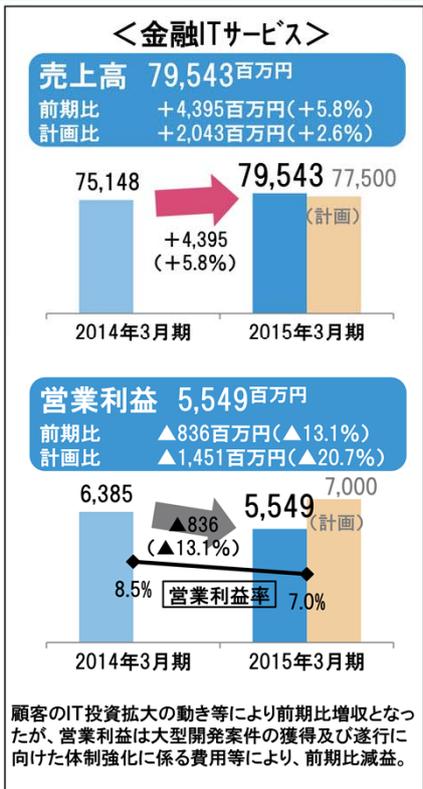
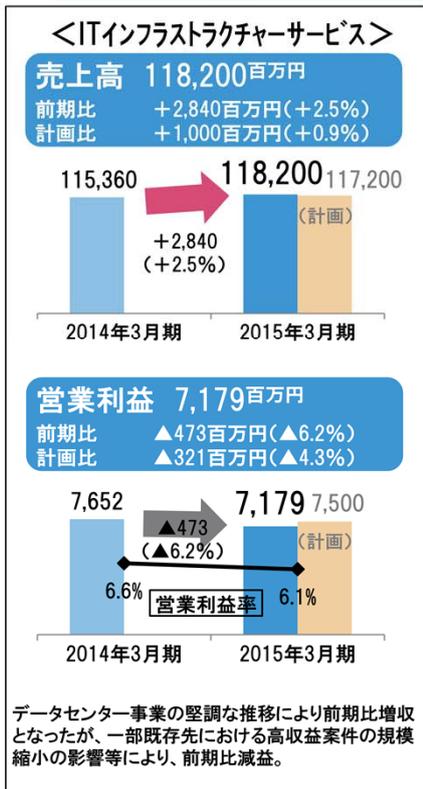
(単位: 億円)



(説明省略)

2015年3月期 主要セグメント別損益状況

(単位:百万円)



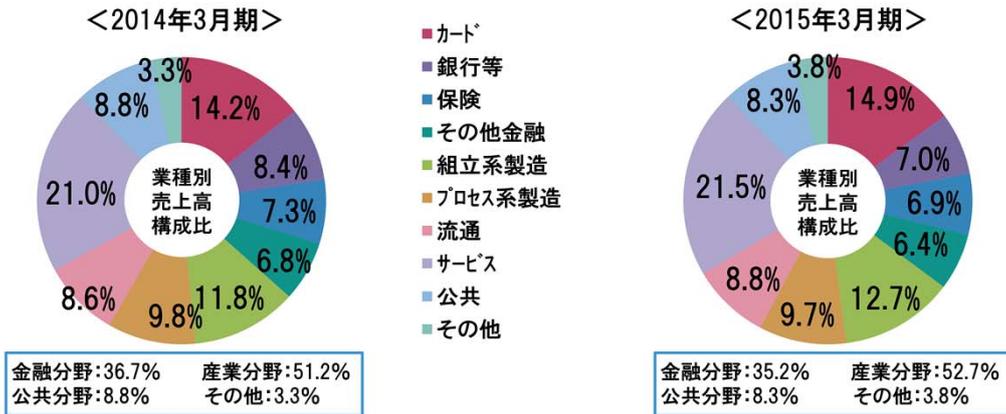
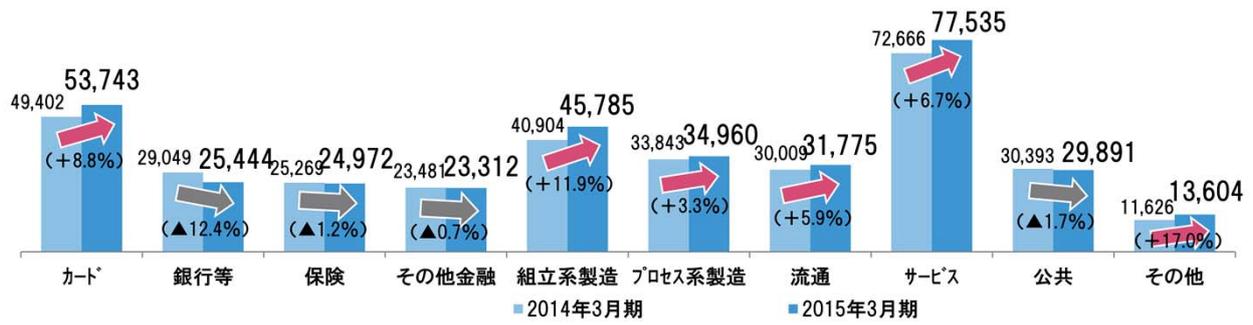
Copyright © 2015 IT Holdings Corporation All rights reserved.

各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

4

- ・セグメント別損益ですが、売上高は主要3セグメントとも好調であり、前期ならびに計画を上回る結果となりました。
- ・しなしながら、利益面については、一部既存先における高収益案件の規模縮小等のあったITインフラストラクチャーサービスが冴えない結果となり、また大型案件関連の先行費用等の影響を受けた金融ITサービスも増収の中でも苦戦しました。一方、不採算案件の抑制が進んだ産業ITサービスは、大幅増益となりました。

2015年3月期 業種別売上高



Copyright © 2015 IT Holdings Corporation All rights reserved.

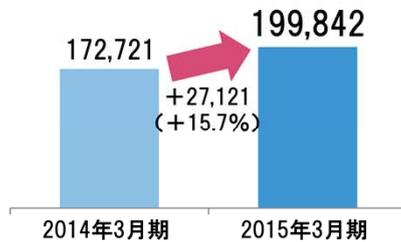
・業種別売上高の状況は、金融系ではカードが牽引し、産業系は幅広い業種で伸びました。

2015年3月期 受注状況

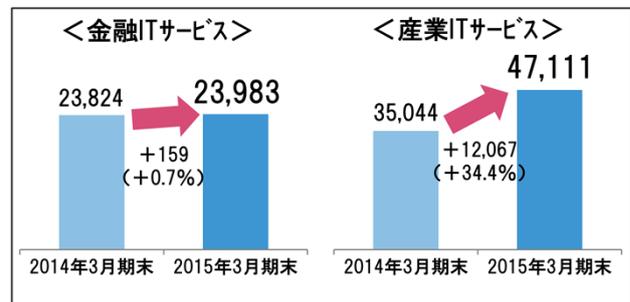
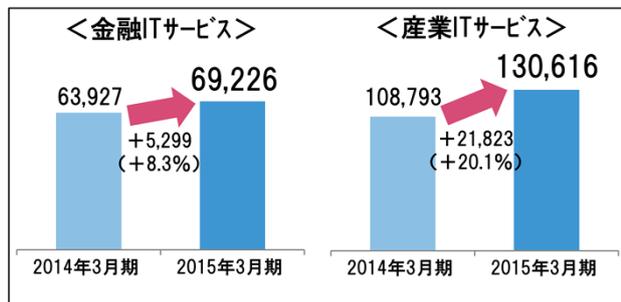
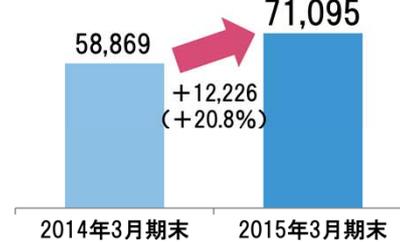
(単位:百万円)

- ・受注高は全体的に好調。公共系大型案件の計上も加わり、前期比大幅増加。
- ・期末受注残は受注高好調を受けて、前期比大幅増加。

当期受注高 199,842百万円
前期比 +27,121百万円(+15.7%)



期末受注残 71,095百万円
前期比 +12,226百万円(+20.8%)



Copyright © 2015 IT Holdings Corporation All rights reserved.

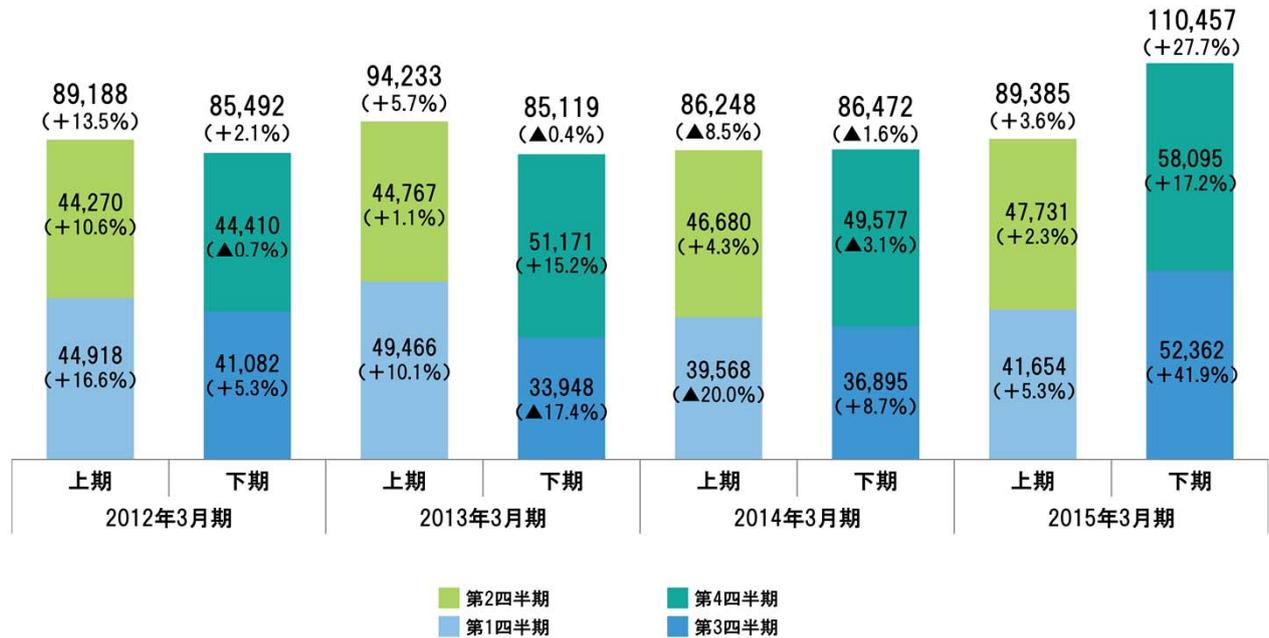
当期受注高・期末受注残・当期売上高は「ソフトウェア開発」に係るもののみ。

6

- ・受注状況については、全体的に好調でした。
- ・受注高は第3四半期の公共系大型案件125億円の計上も加わり、前期比大幅増の1,998億円となり、過去最高水準となりました。
- ・期末受注残も受注高好調を受けて、710億円と前期比大幅増加となり、非常によい形で2016年3月期に入ることができたと考えています。

受注高の推移

(単位:百万円)

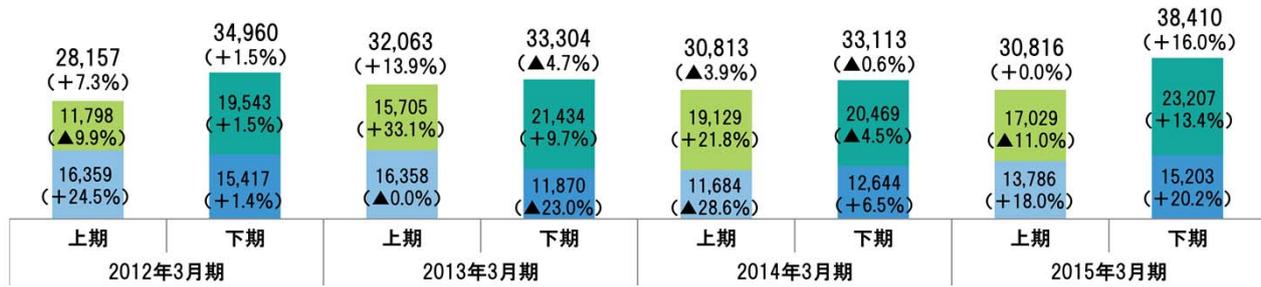


(説明省略)

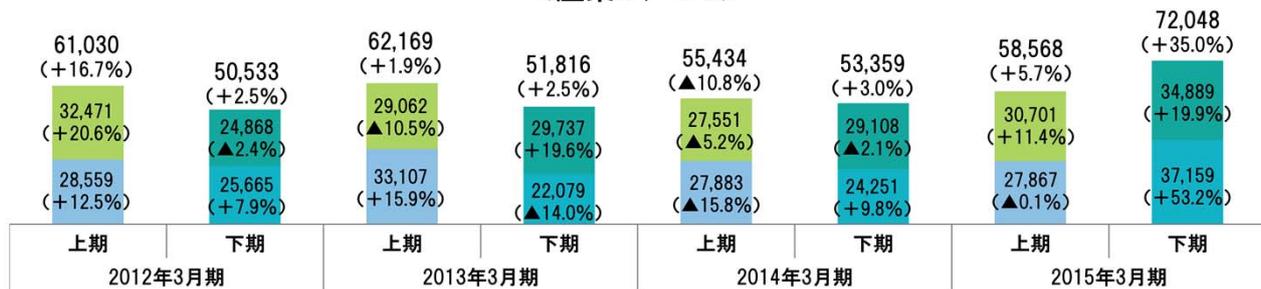
受注高の推移

(単位:百万円)

<金融ITサービス>



<産業ITサービス>



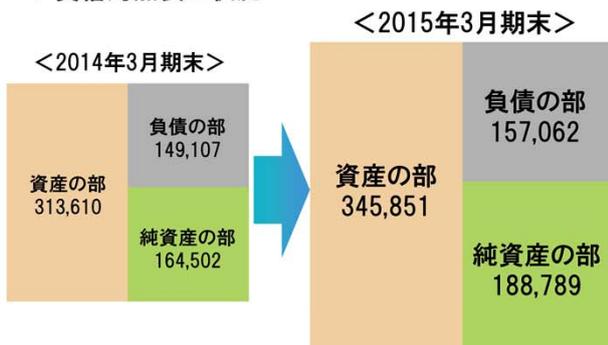
■ 第2四半期 ■ 第4四半期
■ 第1四半期 ■ 第3四半期

(説明省略)

2015年3月期 貸借対照表、キャッシュ・フローの状況

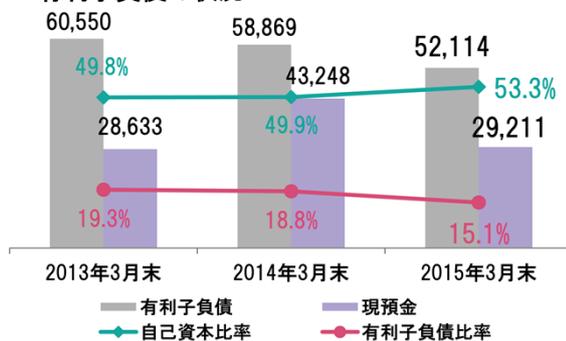
(単位:百万円)

貸借対照表の状況

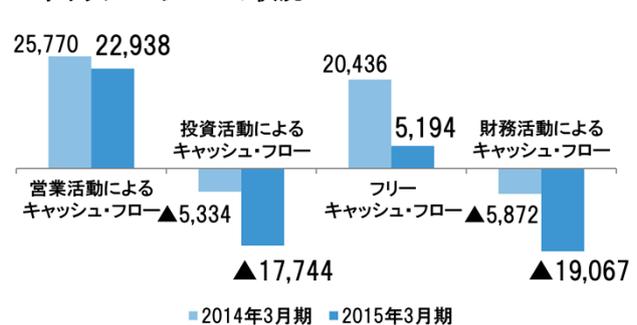


- ▶ 資産の部: +32,241百万円
 - ・流動資産: ▲3,069百万円
(現金及び預金: ▲14,037百万円、受取手形及び売掛金: +10,573百万円 等)
 - ・固定資産: +35,310百万円
(投資有価証券: +32,469百万円 等)
- ▶ 負債の部: +7,955百万円
 - ・流動負債: +4,876百万円
(支払手形及び買掛金: +2,853百万円 等)
 - ・固定負債: +3,079百万円
(繰延税金負債: +10,250百万円、長期借入金: ▲4,977百万円 等)
- ▶ 純資産の部: +24,287百万円
 - ・株主資本: +5,747百万円
 - ・その他包括利益累計額: +22,200百万円
- ▶ 自己資本比率: 53.3%(+3.4%)
- ▶ 有利子負債: 52,114百万円(▲6,755百万円)

有利子負債の状況



キャッシュ・フローの状況



Copyright © 2015 IT Holdings Corporation All rights reserved.

9

・貸借対照表については、総資産が3,136億円から3,458億円と大きく増えています。これは保有する投資有価証券が上場したことによって時価評価されたことが大きな要因となっています。有利子負債については減少傾向にあります。

・以上が、2015年3月期の実績についての説明となります。

2015年3月期 業績概要

2016年3月期 業績見通し

参考資料

・続いて、2016年3月期の業績見通しについてご説明します。

外部環境の認識

- ・景気回復基調に伴う顧客のIT投資需要の拡大等により、引き続き堅調な事業環境が期待される。
- ・引き続き人材確保への対応やプロジェクトマネジメントの効率化等は課題。

<ITインフラストラクチャーサービス>

- データセンターはBCP・DR等の観点から引き続き引合い堅調。クラウドサービスの利用拡大も継続。競争激化の中での収益性の確保が課題。
- BPOは企業経営の改善に資する業務アウトソーシングビジネスの需要が拡大基調。加えて、共通番号(マイナンバー)制度の開始に向けた需要拡大が見込まれる。

<これまで>



<これから>



<金融ITサービス>

- クレジットカードでは基幹システムの更新需要等、IT投資拡大が継続。
- 銀行では大手のシステム統合・刷新等のほか、グローバル対応やフロント系へのIT投資が継続。抑制傾向の続いたバックオフィス系へのIT投資も底打ち期待。



<産業ITサービス>

- 製造・サービス・流通では、マーケティング関連分野等、競争力強化を目的としたフロント系のIT投資拡大が続く。
- 公共では共通番号(マイナンバー)制度関連のIT投資が続く。
- ユーティリティ系では電力システム改革に伴う新規参入事業者等でIT投資が活発化。



- ・事業環境は引き続き堅調であると考えていますが、ITインフラストラクチャーサービスについては競争が非常に激化している中で、収益性に関して慎重な見方をしています。

利益重視

- (1)ROEを経営指標(KPI)として重視し、企業価値向上を目指す
- (2)生産性向上による事業収益性の改善
- (3)投下資本利益率を重視した経営への転換

ITブレイン

- (1)特長ある強み・成長エンジンの先鋭化
- (2)企画型ビジネスの推進(付加価値型ビジネス)
- (3)業界プラットフォームビジネスの推進
(マーケット開拓型ビジネス)

**ポートフォリオ
経営**

- (1)「事業ポートフォリオ経営」実現に向けて第一歩を踏み出す
- (2)「コーポレートガバナンス改革」の推進
- (3)グループ共通機能の統合・集約の推進

・2016年3月期のグループ経営方針は、「利益重視」、「ITブレイン」を目指す、「ポートフォリオ経営」に向けて一歩を踏み出していきたい、ということを中心に掲げて、このページに記載した施策を今年度展開してまいりたいということで考えています。

2016年3月期 業績予想ハイライト

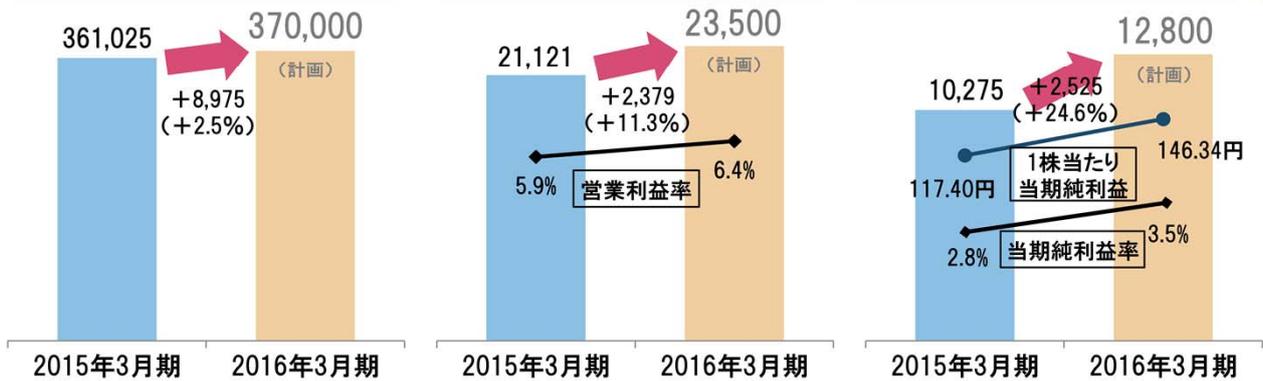
(単位:百万円)

- ・引き続き堅調な事業環境の中で増収増益を計画。
- ・事業拡大とともに生産性向上・不採算案件抑制等を推進。

売上高 370,000百万円
前期比 +8,975百万円(+2.5%)

営業利益 23,500百万円
前期比 +2,379百万円(+11.3%)

当期純利益 12,800百万円
前期比 +2,525百万円(+24.6%)



金融ITサービス及び産業ITサービスを中心として、顧客のIT投資ニーズへの的確な対応による事業拡大を図り、前期比増収を見込む。

増収効果、生産性向上や不採算案件の抑制、のれん償却費の減少等により、増益を見込む。

営業利益の増加や特別損失の減少、少数株主利益の減少等により、前期比増益を見込む。

Copyright © 2015 IT Holdings Corporation All rights reserved.

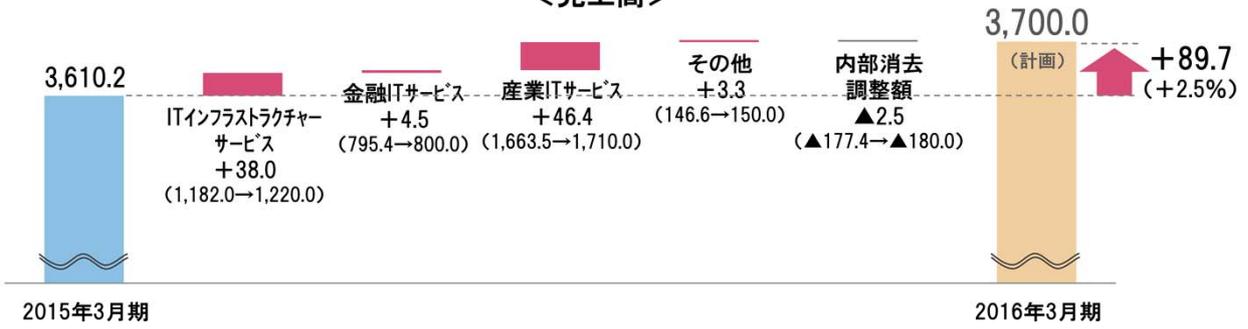
13

- ・2016年3月期の業績予想は、今年度も引き続き堅調な事業環境が続くという中で、売上高3,700億円・前期比2.5%増、営業利益235億円・前期比11.3%増、当期純利益128億円・前期比24.6%増ということを計画しています。
- ・これに伴い、当期純利益率については、2.8%から3.5%に引き上げることを計画しています。

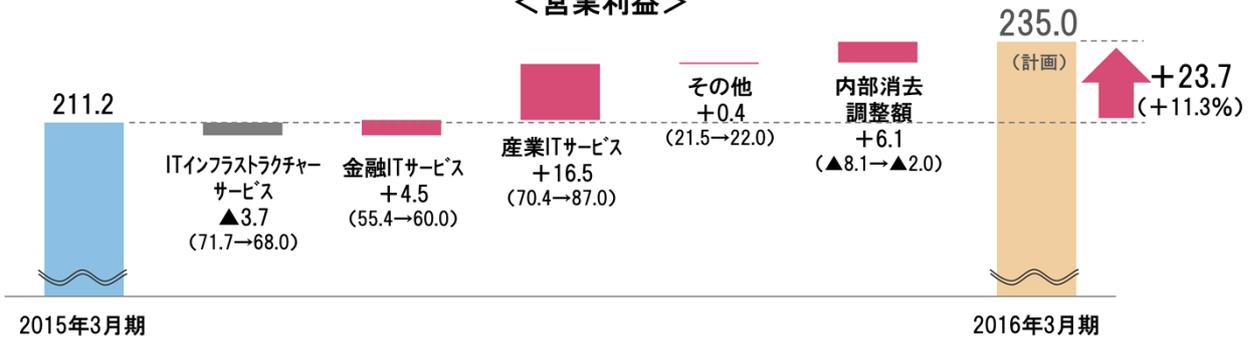
2016年3月期 売上高・営業利益増減分析(予想)

(単位:億円)

<売上高>



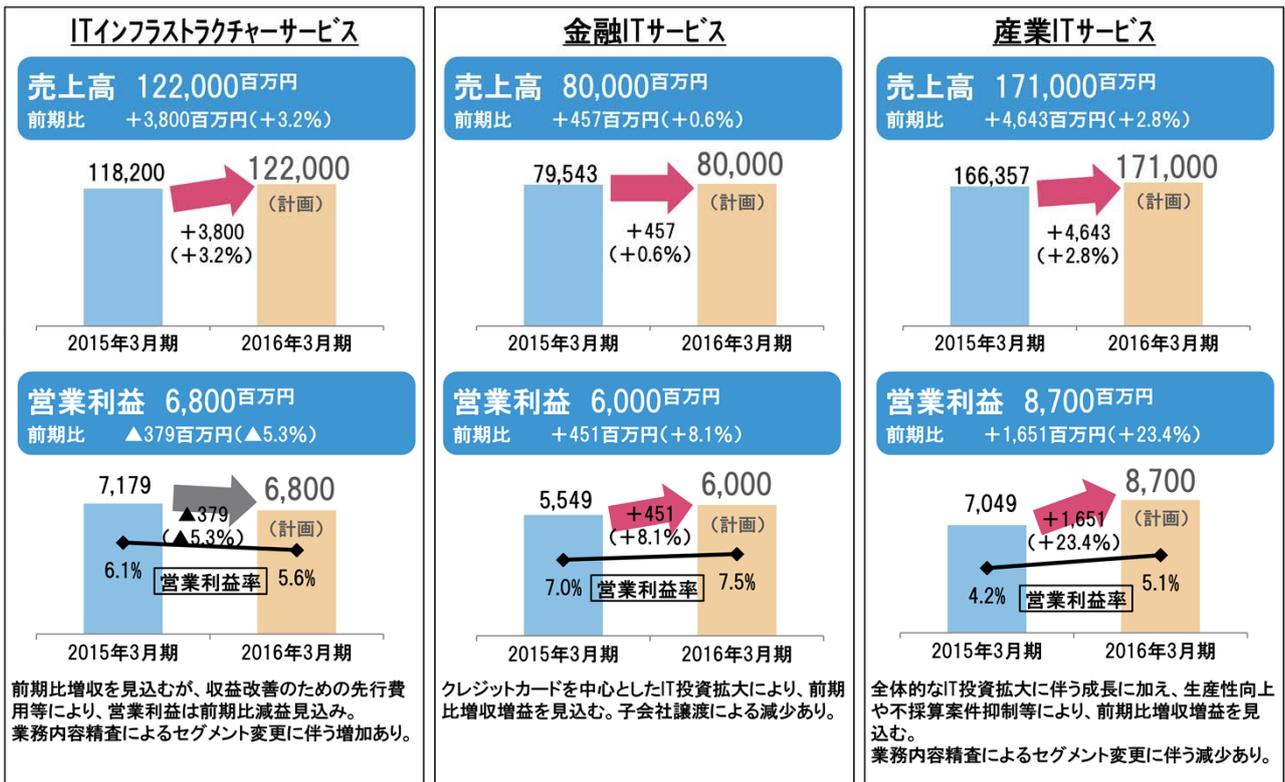
<営業利益>



(説明省略)

2016年3月期 主要セグメント別損益状況(予想)

(単位:百万円)



Copyright © 2015 IT Holdings Corporation All rights reserved.

各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

15

- ・セグメント別損益予想ですが、売上高についてはいずれも増収ということで見えています。ITインフラストラクチャーサービスの営業利益だけが前期比微減ということでは計画しています。
- ・これは、将来の収益改善に向けて先行的な費用をかけることを検討しており、これを見通しの中に織り込んだものです。

2016年3月期 配当予想

株主還元方針を変更。
配当による株主還元と自己株式取得による適正資本構成を図るため、総還元性向を採用。

<これまで>

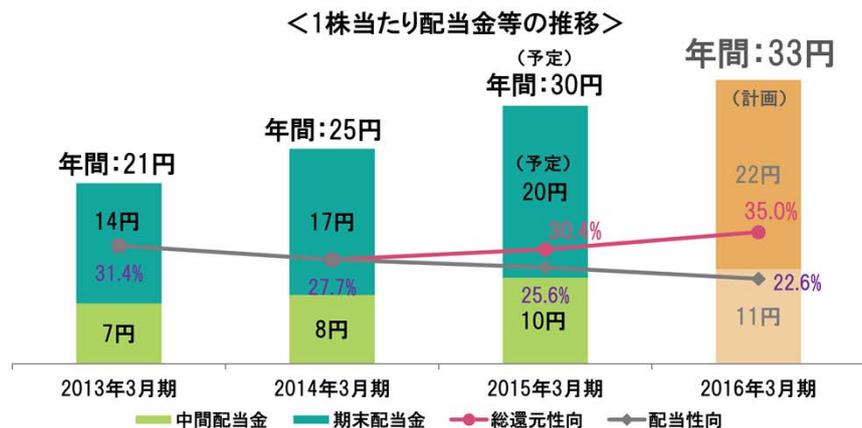
- ・安定的な配当の継続
- ・配当性向30%を目途



<これから>

- ・総還元性向35%を目途
(安定的な配当の継続＋自己株式取得)

1株当たり年間配当金(計画):33円(前期比+3円)



Copyright © 2015 IT Holdings Corporation All rights reserved.

※総還元性向:純利益に対する配当と自己株式取得の合計額の比率

16

- ・最後に、株主還元について説明します。
- ・これまで当社は、配当性向について、安定的に30%を目処という方針のもとでやってまいりましたが、今年度から総還元性向を採用いたしまして、「総還元性向で35%目途」ということになっています。
- ・配当については、安定的な配当の継続の観点から1株当たり3円増の年間33円を計画しており、配当性向の総還元性向35%との差分については、自己株式の取得を今年度の中で適宜検討してまいりたいと考えています。
- ・以上で、私の方からの説明を終了させていただきます。

2015年3月期 業績概要

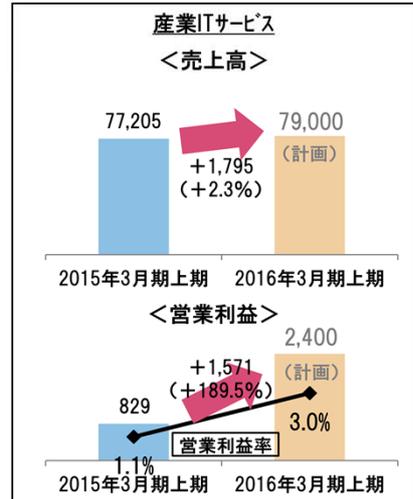
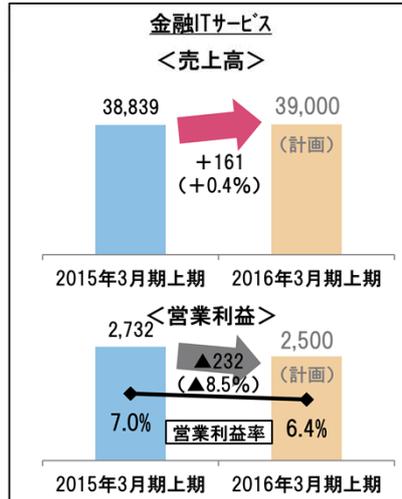
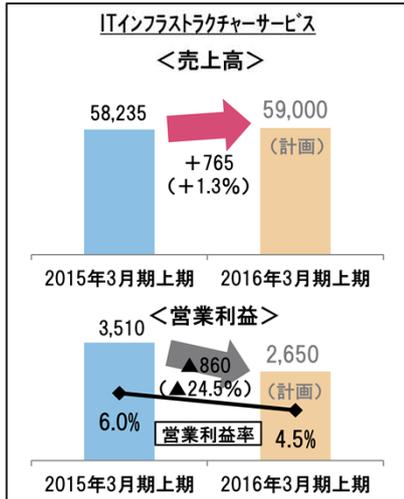
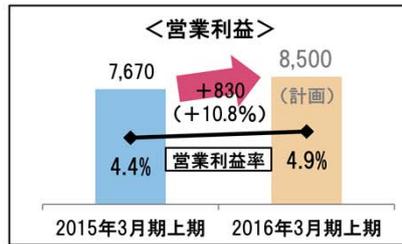
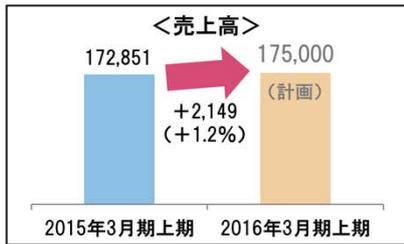
2016年3月期 業績見通し

参考資料

(説明省略)

2016年3月期上期 業績ハイライト・主要セグメント別損益(予想)

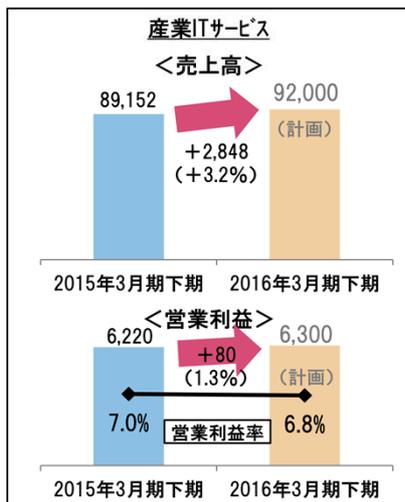
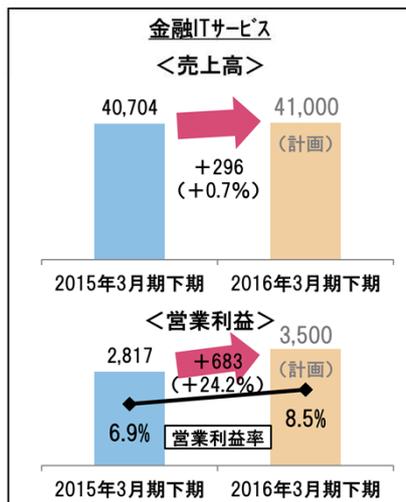
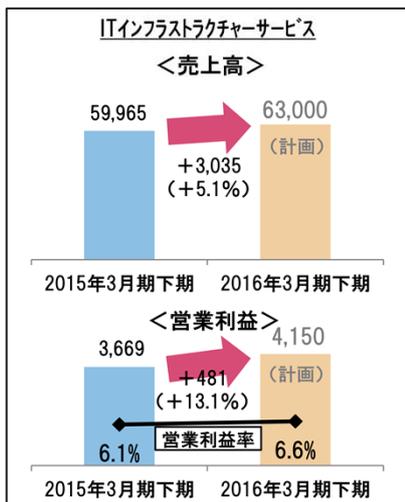
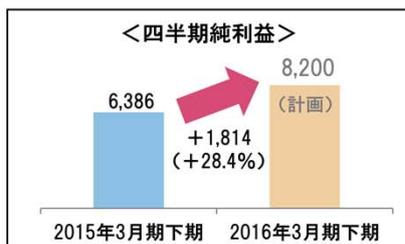
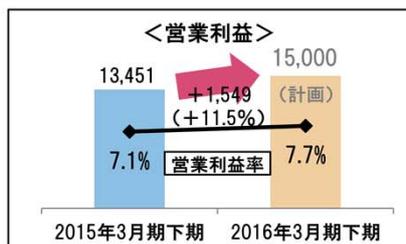
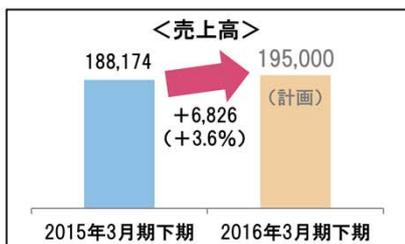
(単位:百万円)



(説明省略)

2016年3月期下期 業績ハイライト・主要セグメント別損益(予想)

(単位:百万円)



Copyright © 2015 IT Holdings Corporation All rights reserved.

下期計画は通期計画から上期計画を控除したものです。
各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

(説明省略)

2015年3月期第4四半期 ITHDグループ プレスリリース/お知らせ



発表日付	タイトル
2015年1月15日	インテックの広域仮想クラウドサービス「EINS WAVE」とMicrosoft Azureを閉域網ネットワーク接続で連携
2015年1月15日	ネクスウェイとドリーム・アーツ、『売場ノート』に“見やすく、選びやすく、買いやすい”売場作りを支援する「売場実現」機能追加
2015年1月16日	クオリカ、インフォアジャパンと製造業向けERPにおけるパートナー契約を締結
2015年1月30日	TISのERP導入テンプレート『TCM(TIS Chemical Model)』が、SAPのパートナーソリューション新承認制度で国内第1号承認
2015年2月2日	OSだけではなく、サーバの延命保守も対応する「Windows Server 2003延命ソリューション」を提供開始(中央システム)
2015年2月3日	高精度測位社会を支える位置情報プラットフォーム「I-LOP」提供開始(インテック)
2015年2月3日	TIS、お客様常駐型オンサイトサービス事業の一部をTISソリューションリンクへ移管
2015年2月4日	クオリカ、タッチパネル情報端末「WebLightNXP」を発売
2015年2月4日	Skeed、アイ・ユー・ケイとレノボ・エンタープライズ・ソリューションズ Windows Server 2003移行支援で3社戦略的提携
2015年2月9日	統合ログ管理「LogRevi Version 6.1」が統合ログ管理ソフトウェアとして初めてPSQ認証を取得(インテック)
2015年2月10日	TIS、OSSのバッチジョブ管理ツール「JobScheduler」の保守サポートサービスを開始 ~ オープンソースの統合監視ツール「Zabbix」との連携ツール「HyClops JobMonitoring」をOSS公開 ~
2015年2月19日	GRANDIT『Solution of the Year』を2年連続受賞(AJS)
2015年2月23日	エネルギー業界向けソリューションの提供を開始(TIS)
2015年2月24日	タワー111「北陸新幹線開業記念ライトアップ」開始のお知らせ(インテック)
2015年2月25日	ネクスウェイとドリーム・アーツ、チェーンストアの経営と現場のPDCAサイクルを支援する『店舗matic』のスマートフォン・タブレット端末対応など13の新機能追加
2015年2月26日	ハウス食品グループ本社が展開する中国のカレーハウスCoCo壱番屋の全店舗にクオリカの店舗・本部営業支援システム『TastyQube』を導入
2015年2月27日	北陸新幹線開業を祝って、インテック本社ビル21階を一般公開「タワー111展望」
2015年3月2日	TIS、CLOクーポンを利用した高度な店舗集客ができるクラウドサービス『Goodeal!』の販売を開始
2015年3月24日	「TIS長野株式会社」を設立(TIS)
2015年3月26日	インテック、富山県内初「自治体クラウドサービス」をスタート
2015年3月27日	インテックとニッセイ情報テクノロジーが銀行向け預り資産販売支援ソリューションの共同開発に合意
2015年3月27日	TIS、クラウドオーケストレーション・ソフトウェア『CloudConductor』の1.0版をOSS公開
2015年3月30日	ネクスウェイ、宅配チラシをまとめてお届け『らくペコ』創刊

(説明省略)



IT HOLDINGS

Go Beyond

(ご注意事項)

- ・本資料ではITホールディングスを略称名(ITHD)にて記載しています。
- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、ITHDグループ(ITHDおよびグループ会社)が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・各四半期会計期間(3カ月)の数値は累計期間の差引により算出しています。

(説明省略)